



情報ツールの活用

-LINE スタンプを用いたコミュニケーションツール他-

私たちは、情報ツールの活用を研究テーマとし、LINE スタンプの作成や株式会社アイシンとの共同ワークショップを行い、自動車の新規サービスデザインの企画を目的に複数のアイデア・発想・提案を行った。

—からスタンプを作る手法を通して情報ツールの使い方を学ぶとともに、コミュニケーション手段を増やすことで、より良い意思疎通の向上を目的として、LINE スタンプ制作に取り組んだ。アイデアを出すことから製作までを自分たちの力で進めることにより、創作する大変さとやりがいを感じ、かつ、コミュニケーションの向上に一助できたと考えている。新規サービスデザインの企画では、株式会社アイシンからの依頼を受け、名古屋市立大学と連携し取り組んだ。未来の自動車向けの、誰もが安心して快適に楽しんで乗り降りできるサービスをテーマとして、共同でワークショップを行った。



砂田ゼミ 岡野 紅香乃
北林 布有
園尾 七海
山岸 真実子
木村 美月
名畑 実紅
小林 沙羅

背景・目的

世の中の情報社会化が進み、スマホを1人1台持つのが当たり前となっている。電話による音声だけではなく、メールを利用することも増えたが、スマホの文字によるメッセージだけでは、細かい表情や感情が伝わりにくいため、上手に気持ちや表現を伝える方法について着目した。議論を重ねていき、表情や感情の情報も伝えられるLINEスタンプを作成し、ホスピタリティの心をスタンプ上で表現することで、情報ツールを活用することをテーマとした。また、研究の中では企業連携も行っており、株式会社アイシンとの情報ツールの活用でワークショップを行った。これは、本学（愛知文教女子短期大学）と株式会社アイシン、名古屋市立大学の三者で共同研究の一環である。これら二つのテーマを通して、情報ツールの活用をすることが本研究の目的である。

研究内容

◆LINEスタンプ作成

<制作・実施手順の概要>

- ・LINEスタンプの使用状況についてアンケートを取る
- ・LINEスタンプのテーマを決める
- ・それぞれでLINEスタンプのイラストを描く
- ・アドビ・イラストレーターでLINEスタンプを作成する
- ・アップロードの仕方を考える

◆株式会社アイシンとのワークショップ

<制作・実施手順の概要>

- ・実際にアイシンの開発品を体験する
- ・車に関するアイデアのブレインストーミング
- ・シナリオからアイデアを検討
- ・シーンのシナリオをランダムで作成
- ・車のカメラやセンサーを使ったアイデア検討、アイデアの絞り込み

研究経過

◆LINEスタンプ作成

4～5月	LINEスタンプテーマ決め、アンケート調査
6～7月	LINEスタンプのイラスト作成
8～9月	イラストレーターなどのアプリを使いLINEスタンプ作成
10月～	アップロードの仕方を考える

◆株式会社アイシンとのワークショップ

5～6月	・実際にアイシンの開発品を体験する（図1） ・車に関するアイデアのブレインストーミング ・当たり前だと思っている常識からその逆を考え新しいアイデアを生み出す（図2）
6～7月	・車に関するシーンのシナリオをランダムで作成し、あると嬉しいサービスの検討 ・センサーやカメラで取得したデータを活用したサービスを考える。 ・今まで出てきたアイデアをマッピングしてアイデアの比較検討（図3）



図1 開発品の体験



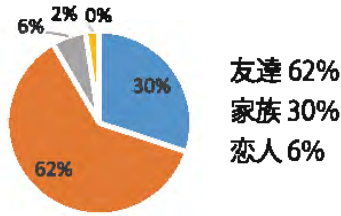
図2 常識にとらわれないアイデア発想



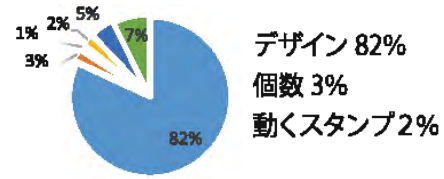
図3 考えたアイデアのマッピング

アンケート結果

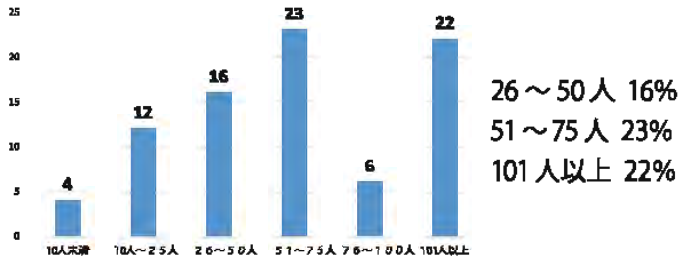
◇スタンプを贈る相手は誰が一番多いですか？



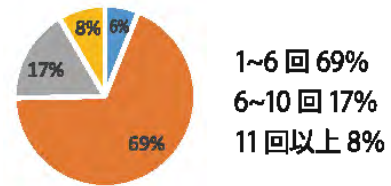
◇有料のスタンプの一番の購入基準は何ですか？



◇あなたのLINEの友達は何人ですか？



◇1日何回位スタンプを使いますか？



- ・スタンプを贈る相手は友達が62%と半数以上を占めていた。
- ・有料のスタンプを購入する場合、デザイン重視の人が82%と高い結果になった。
- ・1日に1~6回スタンプを使う人が多い。

▶▶▶友達との会話の中で気軽に利用できるスタンプを重視して、イラストのデザインを考え作成をした。

反省点と今後の展望

◆LINE スタンプ制作

- ・登録と販売方法

当初無料で配布する予定だったが、調査していくと、プロモーション契約をしないと無料配布できないことがわかり、価格設定をして販売する形をとらざる負えなくなった。また、登録のためには、いろいろと手続きが必要で、販売にたどり着くまでに時間がかかってしまった。

- ・より円滑なコミュニケーションを促すデザインの模索

アンケートの活用、スタンプの販売状況を考慮し、より円滑なコミュニケーションに役立つラインスタンプとは何かを考えることが重要。

- ・宣伝・認知度の向上

今後学校のInstagramやTikTokなどのSNSを用いて発信していきたい。

◆株式会社アイシンとのワークショップ

- ・付箋を使ったアイデア出しで、面白い意見や斬新な意見を出しあったのが楽しかった。日々、視野を広く持つことが大切だと感じた。
- ・普段、企業の方と接することがあまりないので不安だったが、アイシンさんが私たちと同じ目線で話し合いを進めてくださったので、私たちの素直な意見を出すことができた。会議の雰囲気作りが、柔軟なアイデアに直結することを学ぶことができた。
- ・現実味のない案でも、“こうなったらいいな”と思いながらアイデアを出していたので、実現した時のことを考えると大きなやりがいを感じた。これからの時代を担う私たちがドキドキワクワクするようなアイデアを出すことが、今回の私たちの使命だったので、その点についてしっかりと役割を果たせたのではないかなと思う。
- ・使う人の気持ちや需要なども考慮しながらアイデア出しをした。普段、このような考え方をすることがあまりないため難しかったが、自分たちが使うときのことをイメージしながら、本当に欲しい機能を考えることができた。
- ・車への興味が湧き、今後は楽しみになった。



2023 年度 愛知文教女子短期大学 卒業研究

LINE スタンプ作品集

